



生駒市立鹿ノ台小学校

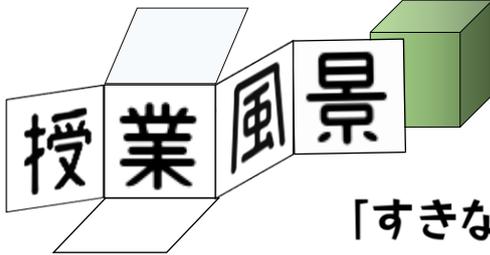
鹿小だより



鹿小ホームページ

令和 7年 5月 16日

第 4 号



6年 道徳

「好きなことと苦手なこと」

人には気づいてもらえないけれど、実は自分が苦手と感じていることは、誰にでもあるものです。一方で、ほかの人は苦手なことだけれど、自分にとってはそれほど苦手ではなかったりむしろ得意(好き)なことであったりする。ある日の6年生の道徳の学習では、そんな好きなことと苦手なことについて考えることがテーマでした。

子どもたちは、「知らない人と話をする」「前に出てしゃべること」「たくさんの人にじろじろ見られること」「じっとしたり落ち着くこと」「負けること」「長い話が苦手」「工夫して~しようというのが苦手」など、さまざまな「自分が苦手なこと」をプリントに書いていました。「じろじろ見られる」と書いてあるのを覗き込んだ私は、思わず「ごめんね」と謝ってしまいました。

「そんな苦手なことを、今すぐ絶対にやってくださいって言われたらどうしますか？」と先生が訊くと「がんばる」と答える子がいます。「どうやってがんばるの？」とさらに問われて、「断ってみる」「いったんやってみる」「ちょっとずつやってみる」と子どもたち。「でも、でも、ピーマン食べるのが苦手でも、そのときだけがんばって食べられるけれど、そんなことばかりじゃないよね」と先生に言われて子どもたちは考えました。「やっているつもりでも、できていないことややり方がわからないことは、なかなかできない。逃げたくなる」という考えも出てきました。



そこで、先生が紹介したのが「十人十色なカエルの子」の絵本。本人が「努力しているつもりでもうまくできない」「やりかたがわからないで困っている」カエルたちがたくさん出てきます。そんなカエルたちへのかかわり方、手助けの仕方について考えるヒントが紹介されていました。

学校や学級の中にも、いろいろな苦手をもった仲間がいます。学級の子どもたちが、「好き」と「苦手」

で互いに補い合い、支え合ってひとつにつながる仲間をつくっていききたいものです。

5/13 民生児童委員のみなさんによる朝の見守りとティッシュ配り。家庭科ボランティアでもお世話になっています。



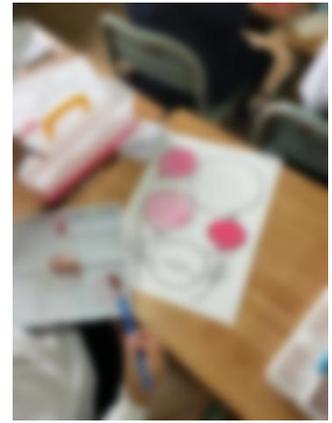
1年生に絵本の読み聞かせ 図書委員



2年

はじめての絵の具

2年生は初めて絵の具を使い、色塗りをしていました。赤、青、緑の中から1色だけ選んで、大きさの異なる4つの風船を塗り分けていきます。1色だけを選ぶ？ そうです、同じ色で水を少しずつ加えて色の濃さを変えて塗り分けていくのです。「色を薄くしていく」と聞いて、白などの別の色を混ぜて薄くすると考えた子もいました。加えていく水は1滴程度ですが、大きな風船に塗っていくたびに、どんどん色が薄くなっていきました。まるで風船が大きく膨らんでゴムが透けていっているように見えてきます。



この日、2年生が使う絵の具セットはおろしたて、真っさらです。水洗バケツに水を張りに行くだけでも、そわそわしています。真っ白なパレットに未使用の絵の具チューブから、小指の先ほどの絵の具を絞り出すときには、何度も呼吸を整えて胸に手を当てている子もいました。見ているこちらにも緊張してきました。この緊張を忘れず、絵の具セットを末永く大切に使いましょうね。

朝の水やりがはじまりました



ホウセンカの種をまく3年生

春から夏にかけて、生活科や理科では植物を育てて観察していきます。

1年生はアサガオの種、3年生はホウセンカまたはマリーゴールドの種、4年生はヒョウタンの種をまきました。4月末頃、3年生の理科の授業で、マリーゴールドの種とホウセンカの種の形について、学習していました。「どんなことが分かったの？」と訊ねると、「ホウセンカは丸くてかたい種で、マリーゴールドは細長くて、ふさふさの毛がある」と教えてくれました。さらに続けて、「ホウセンカ

のケラは鳥に飲まれてもだいじょうぶで、うんこといっしょに遠くへ運ばれるだと思ふ」と解説してくれました。「マリーゴールドのふさふさが何のためかは、たぶん、またこれから…」とのことでした。特徴について、よく観察するとともに、その特徴たる利点、理由について考えを巡らせるのは、学習の醍醐味かもしれません。



肥料を模様のように、つい並べちゃう



オリジナルの塔をつくる 4年



1年生は運動場北側の砂利道に、2年生(野菜を育てます)、3年生は中庭に植木鉢を並べます。4年生のヒョウタンは中庭の東側にある学年園で育てます。

毎朝の水やりが始まりました。

2年生はオクラ、トマト、ピーマン、シシトウの苗を植えました。自分で選びました。